

キルギスタンにおける民族化された紛争

森 彰夫

東北公益文科大学総合研究論集第30号 抜刷

2016年7月20日発行

キルギスタンにおける民族化された紛争

森 彰夫

はじめに

2010年に470人の死者および11万人もの難民を出したキルギス人とウズベク人の衝突は、2005年のアンディジャンでの衝突¹、1990年のキルギス人とウズベク人の衝突²と根が同じ問題である。また、ウクライナ、グルジア、キルギスタンの危機³は一定の関係がある。ウクライナのオレンジ革命⁴、グルジアのバラ革命、キルギスタンのチューリップ革命はカラー革命といわれた。ウクライナとグルジアでは、オリガーキーの一部が西欧とのより多くの機会を模索し、他のオリガーキーはロシアとの関係を維持することを望み、その後深刻な民族衝突を経験し戦争に発展した。キルギスタンのオリガーキーはロシアとの関係が深いのが、ウクライナやグルジアのように分裂や戦争に発展する危険性をはらんでいる。本稿は、キルギスタンにおける2010年のキルギス人とウズベク人の衝突は人為的に民族化された紛争ではないかという問題意識で現地調査を行い、衝突の原因や対策を考察したものである。

¹ 2005年5月13日、イスラム過激派の武装勢力がウズベキスタン東部フェルガナ地方のアンディジャン市の刑務所を襲撃、受刑者を解放するとともに政府建物を占拠し、市内において大統領と政権の退陣を求める住民による大規模なデモも発生した。これに対して政府側は治安部隊を投入したが、鎮圧の際に一般市民に対して発砲し、推計で187名から5,000名の市民が殺害された。秘密警察の内部資料では死者は1,500名とされる。ウズベキスタン政府は当初、デモはウズベキスタン・イスラム運動(IMU)が扇動し、デモ参加者はウズベキスタンに拠点を持つイスラム過激組織のイスラム解放党(Hizb ut-Tahrir)であるとした。Hizb ut-Tahrirはパレスチナで発足しロンドンをベースとしたイスラム教徒の政治組織で、テロとの立場とは一線を画すると公言しているにもかかわらず、国内活動が禁止されている。中央アジアからコーカサスにかけてイスラムのカリフの統治領(caliphate)を設立することを目標としている。

² 中央アジアの国々がソビエト連邦から相次いで独立する直前の1990年、キルギスタン南部のオシエとその近郊でキルギス人とウズベク人の間で衝突が起き、1,000人が犠牲になった。

³ 森(2008年b)、森(2008年c)参照

⁴ 森(2008年a)参照



Base: 803157AI (G00230) 12-05

1. 民族衝突の経緯

チューリップ革命の目標であった議会制民主主義への移行には、革命後に大統領となったバキーエフは関心がなく、むしろロシアや他の中央アジア諸国のような大統領制権威主義を理想としていた。

バキーエフは、チューリップ革命で追われたアカーエフ同様、典型的なネポティズムで、血縁者を要職につけた。長男のマラトは国家保安局⁵の実質的な責任者で、秘密情報をコントロールしていた。バキーエフ大統領の弟のジャンシは大統領府の警護局長官であった。その他、マナス空港にある米軍基地⁶に飛来する米軍機の燃料供給でもバキーエフの親族が関わり巨利を得ていた。

国連麻薬犯罪罪局は、キルギスタンのオシュ、タジキスタンのムルガブ、ウズ

⁵ ソ連時代はKGBで、現在でも通称はKGB。

⁶ 2001年12月に国連の承認に基づきアフガニスタンにおける対テロ戦争支援の拠点としてマナス米空軍基地が設置され、約1,000人の米軍部隊が駐留していた。2014年にアタムバエフ政権は米軍基地の使用契約を更新しなかったため、現在は米軍基地はない。

ベキスタンのアンディジャンを結ぶ“オシュの結節点”に言及している⁷が、2009年には世界で流通しているアヘンの94%がアフガニスタン産となっていて、アヘンからヘロインを精製し、タジキスタンを経由して、オシュからウズベキスタン、カザフスタン、ロシア、その先のヨーロッパに供給されている。ジャニシは兄の権力を利用してオシュやジャララバードを通過するすべての麻薬ビジネスを押さえていた⁸。

バキーエフは、2009年10月に政府資金の6割を取り扱う開発金融庁を新設し、その長官に次男のマクシムを就任させた。マクシムは犯罪組織と組んで収益の上がっている企業を暴力的に乗っ取り、カント・セメント工場、シャンパン・ワイン工場、携帯電話会社Bitel、テレビ局Koort、魚雷製造のダスタン⁹などの優良企業の国有株式を廉価で放出させ買い取っていた。それまで無料であった携帯電話の着信にも0.7ソム（2010年のレートで約1.2円）が課金されるようになった。2010年1月1日からの電気料金が倍になったが、国营北部電力会社をマクシムとつるんだ海外の投資家が安値で買い取った上に料金値上げで暴利をむさぼるものであり、地方の貧しい農民を直撃し、4月革命の主要な原因の一つとなった¹⁰。

4月の反政府大集会は事前に計画され、6日にキルギスタン北西部のタラスで集会参加者と内務省特殊部隊が衝突した後、政府は反バキーエフ派の指導者たちを拘束し、ビシュケクの国家保安局の拘置所に入れた。7日のビシュケクでのデモ参加者に対して、バキーエフ大統領の弟のジャニシは、キルギス人の兵士はキルギス人に発砲しないため国外から連れてきたスナイパーを大統領府の屋上に配備して85人の頭を狙撃させた¹¹。しかし、デモ参加者はこれに怯む

⁷ Kyrgyzstan Inquiry Commission (2011) p. 23.

⁸ 浜野（2011年）p. 138. 2006年から2009年までJICAプロジェクト「キルギス共和国日本人材開発センター」共同所長としてキルギスタンに駐在され、豊富な情報で記述されている。

⁹ キルギス政府はロシアに対する過去の債務を清算するためにダスタン社の株式の48%をロシア側に譲渡することを合意していたが、いつのまにかマクシムがキルギス政府持分の株式の大半を取得していた。

¹⁰ 浜野（2011年）pp. 117-120.

¹¹ 警官2人が死亡しており、死者総数は87人。内務畑に詳しいフェリックス・クーロフは「7日のデモ参加者は武装していた」とし、クーロフが内務相を務めていた時、「撃たなければならないときは頭ではなく足を撃てと部下に教えていた」と、2016年3月24日の筆者のインタビューへ発言している。クーロフは、1987年-1991年に共和国内務第一次官、1991年-1992年に内務相、1992年-1993年に副大統領、1997年-1998年に国家保安相、2000年3月、犯罪教唆、偽造、職権濫用等の嫌

どころか逆に特殊部隊を圧倒し大統領府を占拠した¹²。

4月8日に首都ビシュケクから逃走したバキーエフは当初カザフスタンに亡命するとみられたが、キルギスタン南部の地元のジャララバードで反撃の機をうかがった。ジャララバード州、オシュ州、バトケン州の3州は、政変当初バキーエフ派の影響力下にあったが、少数民族のウズベク人などの反バキーエフ派が勢いづき、やがてバキーエフ派の政治家たちもバキーエフを見放した。

ロシアや米国もバキーエフを見放す中、4月15日、オシュで開かれるはずであったバキーエフ派集會が失敗に終わったことでバキーエフは国外逃亡を決め、ジャララバードからカザフスタンの軍用機で一旦カザフスタンへ逃れて現地で大統領辞任を表明し、20日にベラルーシに亡命した。しかし、バキーエフの一族は復権をあきらめず、6月に予定された憲法改正と暫定政権の信認を問う国民投票を実力で阻止するべく、5月にキルギスタン南部で暴動を起こした。

5月19日には裕福なビジネスマンで影のウズベク人リーダーであるカリジャン・バティロフ¹³が、ウズベク語をロシア語と共に公用語にすべきであると繰り返し主張したため、彼がジャララバードに設立していた人民友好大学は地元のキルギス人の怒りを買ひ、銃撃戦となり2名が死亡し90人が負傷した。高等教育の近代化を図るEUのTempus projectのコーディネーターのグルナラ・チョクシェヴァによれば、ジャララバード国立大学、ジャララバード医科大学、オシュのキルギス・ウズベク大学は武装攻撃によって完全に破壊され12,000人の学生に影響が出た¹⁴。

ローザ・オトゥンバエヴァが5月19日に暫定大統領に就任し、南部の暴動の

疑で逮捕され、2002年11月、財産没収と主刑服役後3年間の公務従事権の剥奪を付加する自由剥奪10年が言い渡され、2004年3月24日、チュエリッパ革命の群集により釈放され、2005年9月-2006年12月に首相。1999年にアル・ナミス（尊厳）党を設立し、2010年10月の選挙では第3党であったが、野党となった。

¹² 浜野、同上。

¹³ キルギスタンにおけるウズベク人ビジネスマンで国会議員であったが、2010年の衝突後、欠席裁判で民族紛争の首謀者として終身刑を言い渡されたため、スウェーデンに亡命した。

¹⁴ オシュとジャララバードには、中国、パキスタン、インド、トルコ、アフガニスタン、韓国、カザフスタン、トルクメニスタンやウクライナから大勢の留学生が来ている。1,300人の中国人学生は新疆ウイグル自治区のウラムチに非難し、100人のトルコ人学生も非難した。パキスタンは700人の学生を非難させるために軍事計画を送り、インドは116人の学生をビシュケクに非難させた。およそ300人のトルクメニスタンからの留学生は本国に、350人はウズベキスタンに非難した。<http://www.universityworldnews.com/article.php?story=20100621080133713>

鎮圧にひとまず成功した。しかしキルギス人と、政治的に劣位におかれてきたウズベク人との間の民族対立が先鋭化し、6月の民族衝突へとつながった。クーロフは、「挑発が激しく誰もコントロールできず、ウズベク人が自治を要求したのは過ちであった」¹⁵と指摘した。

キルギスタンはコラプションが深刻であり、2005年のチューリップ革命でロシアに逃亡したアカーエフ、2010年の革命でベラルーシに逃亡したバキーエフはコラプション・システムの頂上にいた。民族衝突の舞台であるオシュは人口26万人で、住民の半分はウズベク人でビジネスの大半はウズベク人によって担われているが、役所、警察、裁判所などはキルギス人によって占められている。このため、ウズベク人のビジネスマンはキルギス人によって占められている地方政府諸機関に贈賄してきたため安定していたが、2010年にウズベク人のビジネスマンが贈賄することをやめたことも民族衝突の原因といえる¹⁶。

衝突の始まりは、6月10日の深夜、カジノの賭けで勝った負けたという金銭上のトラブルがきっかけで、1,500名ほどのウズベク人がホテル・アライやフィルハーモニーの周辺に集まり、多くが棍棒、石、鉄棒などを持ち、ウズベク人の数が増えるにつれキルギス人も近隣から集まり、警官隊と衝突したことが発端である。しかし10日深夜からオシュ国立大学の学生寮でウズベク人男性によってキルギス人女性が強姦され殺害されたという噂がSNSで流れ¹⁷、11日早朝からは、オシュ市内のウズベク人居住区を武装したキルギス人集団が襲い、警察や軍の装甲車、銃器を使いウズベク人居住区の無差別殺戮、住居の破壊、資産の略奪、強姦が行われ、ウズベク人の一部も武装して抵抗した¹⁸。

470名が殺害され、内訳は74%がウズベク人、25%がキルギス人、1%が他のエスニシティあるいは国籍者であった。90%以上が男性で、約67%は銃創が死因であった。6月11日と12日のオシュでの死者の70%近くはウズベク人であったが、6月12日のジャララバードでの死者はキルギス人が6、ウズベク

¹⁵ クーロフの2016年3月24日の筆者のインタビューへの発言。

¹⁶ 2016年3月24日の、人権問題の活動家で弁護士のヌルベク・トクタクノフの筆者のインタビューへの発言。

¹⁷ Kyrgyzstan Inquiry Commissionは、学生寮でのキルギス人女性の強姦や殺人は起こっていないと確認している。Kyrgyzstan Inquiry Commission (2011) p. 28.

¹⁸ *ibid.* pp. 27-36.

人が1の比率であった。数千人が負傷し、1,900人が病院で怪我の手当を受けた。ウズベキスタン国境を越えて逃げた人々のうち200人以上が銃創を負い、約2,800人が病院に搬送された。UNOSATによれば、2,843の建物が破壊され、主にウズベク人の住宅であるマハッラ¹⁹が破壊され、UNHCRによれば1,943棟のマハッラの住居が破壊された。111,000人近くがウズベキスタンへの難民となったが、6月27日の国民投票前に約78,000人がキルギスタンへ戻った。UNHCRによれば30万人が国内難民になり、2011年1月時点で169,500人が難民生活を続け、多くの人々がキルギスタンから周辺国に移住した²⁰。

3日間で終わり長期的な内戦にならなかったのは、ウズベキスタンのカリモフ大統領がキルギスタンの国内問題であるとして介入せず、ウズベキスタン国内に逃げてきた難民をキルギスタンに送り返したことが大きな要因として挙げられる。ウズベキスタンが軍事行動を起こすことによって不可避となるキルギスタン軍との戦争を回避すると同時に、ウズベキスタンの人口3,000万人のうち25～30%のタジク人²¹の問題を国内問題として処理する必要があったためと推測される。

現在では、多くの焼き討ちされたウズベク人の住宅も修復され、痕跡はほとんど残っていない。平和構築のための草の根のNGOの活動も始められ、国際NGOのSaferworldによる早期警戒メカニズム構築などの活動、ジェンダーNGO“Ensan Diamond”の800人の女性による平和構築ネットワークの土地、水、放牧地、森林などをめぐる社会経済的問題の解決に向けた取り組み、NGO“Youth of Osh”による緊張を緩和するためのフェスティバルなどが企画され、パッチワーク的に問題解決に取り組まれてきた。

¹⁹ 中央アジアで見られるウズベク人の地域コミュニティである。歴史的に、マハッラは血縁関係やイスラム教コミュニティの絆に基づいた自治的な社会制度だった。ウズベキスタン地域がソビエト連邦による統治を受ける以前は、マハッラは公的な行政区画と近所付き合いなどの私的な結びつきを媒介する地方自治体としての役割を果たしていた。宗教儀式や結婚式などの慶事、公共施設などの資源管理、揉め事処理、その他様々な地域コミュニティ活動がマハッラによって行われており、マハッラでは年長者による非公式の会議（oqsoqol, aksakal）が行われていた。

²⁰ Kyrgyzstan Inquiry Commission (2011) pp. 44-46.

²¹ Foltz (1996) pp. 213-216. ソ連時代に、ウズベク語を話すことのできるタジク人はウズベク人と分類されたため、現在も公式には5%前後とされている。

2. 2010年の衝突の分析

1924年にスターリンが地域管理のために機械的に村の中央などに国境線を引き、解決されずそのまま残っていたが、1991年の独立で深刻な問題となり、スターリンの恣意的な国境画定の所業が数十年を経て悲劇を演じているとの見方もある²²。常に対立させモスクワに助けを求めさせ支配してきたという見方から、ウズベク系のロシアの親プーチンのオリガーキーであるアリシエル・ウスマノフ²³とプーチンが、ウズベク人とキルギス人を衝突させ弱体化させたという噂を耳にすることがあるが、憶測の域を出ていない。ウスマノフは、衝突後、難民化したウズベク系住民に対して500万ドルの寄付を行っている²⁴。「ロシアはISなどの過激派が流入するため中央アジアからの移民を歓迎していないので、ウスマノフとプーチンが画策することはない」²⁵という指摘もある。

オトゥンバエヴァ暫定大統領の依頼でOrganization for Security and Cooperation in Europe (OSCE) 会議のキンモ・クリューネンを調査委員会委員長とし、フィンランド、オーストラリア、エストニア、フランス、ロシア、トルコ、イギリスからの著名なメンバーを含み国際キルギスタン調査委員会が設置され、750人の目撃者、700のドキュメント、5,000枚の写真、1,000のビデオを基に調査が行われ報告書が発表された。

キルギスタン暫定政府は国内調査委員会にも暴動について調査させたが、両者の結論は大きく食い違った。国内調査委員会は衝突の責任をウズベク人側に帰した。一方で国際キルギスタン調査委員会側はオシュの現地警察がキルギス人側の暴徒に深く関与し、また暴動の際にウズベク人を違法に虐待し、人道に

²² *The Economist*, (17 June, 2010) "Stalin's Harvest", <http://www.economist.com/node/16377083>

²³ (1953年 -)。ウズベク・ソビエト社会主義共和国ナマンガン州生まれ。ガスプロム・コンツェルンの最重要人物、億万長者、巨大冶金工業企業ウラル・スチール、ミハイロフスキーおよびレベジンスキー採鉱選鉱一貫工場、オスコリスキー電気冶金工場（メタロインベスト・ホールディングとの合弁）の共同経営者。2008年のフォーブス誌によれば93億ドルで世界第91位・ロシア国内第19位の資産家。アーセナルFCのオーナー株比率は25%に増やした。妻のイリーナ・ヴァイネルは、プーチンの愛人と言われている新体操のカバエヴァのコーチである。

²⁴ <http://sputniknews.com/world/20100619/159489519.html>

²⁵ インターファックスのコーディネーターでクラブ"Opinion"のスポークスマンであるイゴル・シエスタコフの筆者のインタビューへの2016年3月24日の発言。

対する犯罪が起こったとしている²⁶。キルギスタン政府は、国際キルギスタン調査委員会の報告書に対して、衝突とボグロムが起こったとしながら、ウズベク住民に対する予め準備された組織的な攻撃が“国家の政策あるいは組織のサポート”の調整によって行われたと定義される人道に対する犯罪が起こったという十分な証拠を示していないと反論した²⁷。両者の溝は埋まらないまま、2011年1月に政府は調査を打ち切った。国際キルギスタン調査委員会の報告書が発表された2011年5月に調査委員会委員長のキンモ・クリューネンは、*persona-non-grata*として入国禁止となった²⁸。

国際キルギスタン調査委員会の報告書は、国がキルギスタンが多民族社会であることを宣言し、少数民族の公的生活のすべての領域での統合を促進することによって、極端なナショナリズムや民族排斥に対して強い公的立場をとるべきであること、“キルギス共和国”より市民ベースの国民形成により対応しているものとして“キルギスタン共和国”の名称を復活させ、民族間対話や統合に関する公共意識を発展させる戦略においてNGOに関与しサポートすべきであると踏み込んで提言している²⁹。

これは、キルギス人の政治家が少数民族の問題を解決するとよく表明している者でさえ、ウズベク人を本当に平等な市民として受け入れる用意がなく、アカーエフやバキーエフがともにロシア人の首相をキルギス人多数派にコメントを求めることなく指名していたことと対照的に、キルギス人にウズベク人が首相や国防相になることを想像することは困難である³⁰と、厳しく批判したものである。また、キルギス人の共和国ではなく、キルギスタン人の共和国とすることによってキルギスタンにいるキルギス人、ウズベク人、ロシア人などの諸民族は皆キルギスタン人（キルギスタン国民）となるよう是正を求めたものといえる。

さらには、政府がヨーロッパ地方言語・少数言語憲章に参加する可能性を検討すべきで、ウズベク語がキルギス南部の地方自治体や地域レベルで書式、公

²⁶ Kyrgyzstan Inquiry Commission (2011) pp. 47-61.

²⁷ Government of Kyrgyzstan (2010)

²⁸ Suinaly kyzy (2012), p. 4.

²⁹ Kyrgyzstan Inquiry Commission (2011) p. 83.

³⁰ *ibid.* p. 24.

報、教育、文化的・法的便宜において特別な地位を持つべきであると指摘した³¹。

衝突の分析として、“Youth of Osh”の共同創始者のアイジャン・トクトシェヴァは「ジェノサイドや内戦といったステレオタイプの範疇ではなく、噂の犠牲と捉えるべき」³²としたが、ジェノサイドはウガンダやダルフル紛争の場合のように数10万人虐殺されなければジェノサイドと認定されないのか定義が明確にされておらず、単に“噂の犠牲”とすれば、楽観的に矮小化することになりかねない。

国際NGOのInternational Crisis Groupは、キルギス人によるウズベク人へのボグロムとしている³³。しかし、民族(ethnicity)は対立の主導的な区別ではなく、動員の資源であり、ボグロムとボグロム化された紛争、ジェノサイドとジェノサイド化された紛争、民族紛争と民族化された紛争は区別する必要がある。

キルギスタンにおける地方 - 都市、階級、言語、ウズベク - キルギスの度合いに関する地域的区分は、区分理論で説明される。リップセットとロッキンは、クロス・カッピングの区別は紛争の集中を減らし、重なり合う区別はお互いを強化し、政治的な紛争は一つの政治的な単位が他に対して時を超えて変わる区分のヒエラルキーの存在の産物であると論じている³⁴。

コンストラクティヴィズム(構成主義)の立場から区別やアイデンティティが開拓され、アイデンティティの形成において政治的な企業家の意図的および非意図的な政治的な役割を演じることと同様に構造的および歴史的役割が説明されてきた。コンストラクティヴィズムは、リアリズムとリベラリズムに対して「権力政治」のような現実主義の中心概念さえも社会的に構築されたもの、つまり生来的に所与ではなく、人間の実践によって変革可能であるとし、国際関係における規範、アイデア、アイデンティティを重視するアプローチである。

スイナリ・クズ・アセルはコンストラクティヴィストの立場から、民族紛争(ethnic conflict)ではなく民族化された紛争(ethnicized conflict)として分析

³¹ *ibid.*, p. 83.

³² 2016年3月25日の筆者のインタビューへの発言。

³³ International Crisis Group (2010)

³⁴ Lipset and Rokkan (1967), pp. 23-24.

表1 主要経済指標

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
農業付加価値 (% of GDP)	36.7	37.3	37.7	37.1	33.3	31.9	32.8	31.1	27.0	21.1	19.4	18.6	19.2	17.0	17.3
消費者物価指数 (2010 = 100)	49.0	52.4	53.5	55.1	57.3	59.8	63.2	69.6	86.6	92.6	100.0	116.5	119.6	127.5	137.1
経常収支 (% of GDP)	-5.6	-1.2	-1.8	-2.2	1.3	-1.5	-10.1	-6.0	-13.9	-4.3	-6.6	-9.6	-25.4	-23.0	-24.2
GDP成長率 (年%)	5.4	5.3	0.0	7.0	7.0	-0.2	3.1	8.5	8.4	2.9	-0.5	6.0	-0.1	10.9	3.6
1人当りGDP (US\$)	280	308	322	381	433	477	543	722	966	871	880	1124	1178	1282	1269
1人当りGDP 成長率(年%)	4.2	4.3	-0.9	5.9	5.7	-1.3	2.0	7.5	7.4	1.7	-1.7	4.7	-1.7	8.7	1.5
1人当りGDP, PPP(US\$)	1644	1755	1765	1907	2071	2110	2219	2449	2681	2746	2734	2921	2921	3224	3321
個人の本国送金 額(% of GDP)	0.6	0.7	2.3	4.1	8.5	12.7	16.7	18.5	23.8	20.9	26.4	27.6	30.8	31.1	30.3
貧困率 \$1.90/日 (2011, PPP)(%)	42	36	34	28	14	22	16	4	3	3	4	2	3
貧困率 \$3.10/日 (2011, PPP)(%)	76	72	70	68	44	49	40	35	21	25	22	19	20
貧困率 国民貧困線 (2011, PPP)(%)	40	35	32	32	34	37	38	37	31
避難所にいる難 民数	10609	9296	7708	5591	3753	2598	366	723	375	423	2458	6095	4941	466	482
失業率(%)	7.5	7.8	12.5	9.9	8.5	8.1	8.3	8.2	8.2	8.4	8.6	8.5	8.4	8.3	8.1
失業率(15-24歳 若者%,ILO 予測)	13.7	14.2	20.0	16.6	15.2	14.4	14.6	14.9	15.4	16.8	16.6	15.9	16.6	15.3	14.7

Source : World Development Indicators より作成

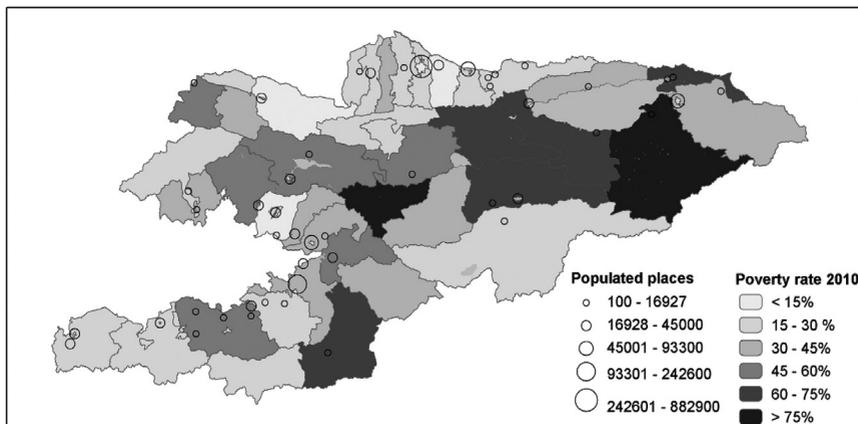
している³⁵。キルギスタン南部のキルギス人とウズベク人は長い間平和的に共存してきたのであり、1990年の6月や2010年の6月という特定の時期に衝突したのは、区分や差異を利用して人々を扇動して衝突させたからに他ならず、このようなコンストラクティヴィストの立場からの分析が有効といえる。

3. 経済的背景

キルギスタンでは農村人口が6割に達し、表1にあるようにGDPの4割を農業が占めていたが、1991年にソ連が崩壊し、すべての農家が加入していた国营農場（ソフホーズ）や協同組合農場（コルホーズ）が破綻し、コメコンの分野でキルギスタンが担当していた畜産や小麦の輸出先が消滅した。1993年か

³⁵ Suinaly kyzy, Asel (2012)

図1 キルギスタンにおける貧困率



Source : World Bank (2013) p. 15.

KCSP, PEMPR, DIRECT 2012-11

らこれらの集団所有の資産が構成員に分配されたが、2.5ヘクタール程度の農地、数頭の牛や馬、数10頭の羊などを所有する零細農となり、農業機械は共同所有もしくは資金力のある農民に売却され、非効率な農業で生産が激減した。

ロシアやカザフスタンへの出稼ぎが急増したが、2008年以降の世界金融危機後のロシア経済の低迷で出稼ぎも困難となり、GDPの3割を占めていた本国送金は頭打ちとなり、地方に失業者が滞留し、不満を蓄積させてきた。1人当たりGDPは500ドル以下から1,269ドルに増えたが、消費者物価も上昇しているため生活はそれほど楽にはなっていない。経常収支の赤字が拡大しているが、貿易収支の赤字が拡大しているからであり、輸出競争力のある品目を生産できず中国からの輸入品に市場を奪われてきていることを物語っている³⁶。貧困率も1日3.1ドル未満で生活している人が20%もあり、国民貧困線では30%以上となっている³⁷。失業率は全体では10%を下回っているが、15歳から24歳の若者の失業率は15%を超えている。図1が示しているように、キルギスタン南部の貧困率が高い。

³⁶ 森（2008年b）参照。

³⁷ 貧困線は、統計上、生活に必要な物を購入できる最低限の収入を表す指標で、それ以下の収入では、一家の生活が支えられないことを意味する。各国の国民貧困線は、世帯調査に基づいて人口加重したのによって作成されている。

キルギスタン南部にあるカラ・スーのアル・サラシモスクのカリスマ性のあるイマーム（導師）であるラショット・カマロフは、暴力的で腐敗した役人たち、社会の道徳的退廃、西洋ポップ・カルチャーを批判していたため尊敬を集めていた。しかし、戦闘員たちにシリアやイラクでISと共に戦うよう鼓舞し、Hizb-ut-Tahrirのメンバーであるとして2015年2月に逮捕された。キルギスタン南部ではひげを伸ばした男性が多くなりイスラム化が進んだのは確かであるが、ウズベク人の市民権に関するアジテーションを嗅ぎ付け、他のイマームが発言をしようとしないうち、カマロフを沈黙させようとするための反テロリズムを用いたでっちあげであるという見方もある³⁸。

キルギスタン南部にはシリアに行って帰ってきた人が多い。OSCE Academyのドゥナイ・パール学長は、「公式発表は240人であるが、何人シリアに行って何人死んでいるのか正確には分からず、2000人以上シリアに行っているだろう」³⁹と指摘した。UNHCRビシュケクの篠原万希子事務所代表は、「ISはシリアが落ち着いたら、アフガニスタンからタジキスタン、さらにはフェルガナ盆地まで突破したブラックルートがほしく、5年後には北上してきてキルギスタンで再び難民が発生することが予想されている」⁴⁰と警告を発している。OSCE Academyのドゥナイ学長は、「アタムバエフ政権は国のために何もせず、危機が起こったら国際社会に救済を求めるだけ」⁴¹と手厳しく批判している。

4. 民族と部族

血縁に基づく部族は地域コミュニティにおける相互扶助というようなポジティブな側面も持っているが、権力を維持するための基礎として活用されてきており、同一の地域で共生する市民としてのアイデンティティの形成が不可欠である。

キルギス人は、主にキルギスタン共和国を中心として中央アジアに分布するテュルク⁴²系民族である。キルギスタン共和国の約560万人のほか、周辺の旧

³⁸ <http://www.eurasianet.org/node/72116>

³⁹ OSCE Academyのドゥナイ学長の2016年3月24日の、筆者のインタビューへの発言。

⁴⁰ 2016年3月23日の、UNHCRビシュケクの篠原万希子事務所代表の筆者のインタビューへの発言。

⁴¹ OSCE Academyのドゥナイ学長の2016年3月24日の、筆者のインタビューへの発言。

⁴² 中央アジアを中心にシベリアからアナトリア半島にいたる広大な地域に広がって居住する、テュルク

ソビエト連邦諸国や中国の新疆ウイグル自治区などにも数十万人が住み、中国55少数民族のひとつに数えられる。現在のキルギス人は天山山脈、パミール・アライ方面に居住している人々を指す。天山キルギスは、モンゴル帝国の支配下でモンゴルの要素を受け入れ、中央アジアへの進出後のカザフ・ノガイの要素、ウズベク、タジクといった中央アジアの要素を受けついで現在のキルギス人形成に至る。

キルギスの語源は「кырк (クイールク)」が40の意味で、40の民族を指し、また中国人にかつて「гунны (グンヌイ、匈奴)」と呼ばれていた背景から、それらを合わせてキルギスとなったと言われている。ちなみに、テュルク系言語で40を意味する「クウルク」に、娘や女の子を意味する「クウズ」をあわせた「クウルク・クウズ」は、“40人の娘”という意味になり、「40の部族」ないし「40の氏族」という意味のほうが適切である⁴³。

ウズベク人は、総人口約2,700万～3,300万人の中央アジアで最大の人口を抱えるテュルク系民族で、容貌的にはモンゴロイドを基本としてコーカソイドが入り混じっている。ウズベクを率いたシャイバーニー朝が16世紀はじめに南下、ティムール朝を滅ぼしてマー・ワラー・アンナフル周辺に定住して以来、ウズベクとは西トルキスタン南部に住むテュルク系遊牧民のことを指した。一方で、遊牧民から定住化するウズベクも増え、もともとのテュルク語とペルシア語系の言葉とのバイリンガルになってそれまでの定住民（チャガタイ・トルコ人やタジク人）との違いがみられない者も都市では珍しくなくなった。このように定住化したウズベクが担った国家はマー・ワラー・アンナフルのブハラ・ハン国、ホラズムのヒヴァ・ハン国、フェルガナのコーカンド・ハン国の3国があり、総称してウズベク3ハン国と呼ばれる。これら3国は19世紀後半にロシア帝国によって併合もしくは保護国化された。

ク諸語を母語とする人々のことを指す民族名称である。

⁴³ ①ハンの娘の40人の侍女の子孫。②40の部族の子孫。③連峰に住む人々の子孫といった起源伝説がある。吉田 (2005年) p. 175。日本語名のキルギスは、ロシア語表記の「Киргиз」に由来する。独立時に、キルギスのロシア語表記・英語表記は、キルギス語の自称に基づいた Кыргыз・Kyrgyz に改められたが、日本語ではそのままキルギスと呼びつづけ、正式国名の日本語名はキルギスタン共和国と表記された。その後のキルギス共和国への国名変更を経て、依然キルギスと通称されている。タジキスタンやカザフスタンなどにみられる「～スタン」とは、ペルシア語で「～が多い場所」を意味する言葉である。本項では通称として「キルギスタン」を使用するが、中央アジアの研究者には正確な発音に近い「クルグズタン」と表記すべきとの意見もある。

20世紀に入るとマー・ワラー・アンナフルの間から民族運動が起こり、彼らのうちのテュルク系の一派が西トルキスタン南部のテュルク系定住民と遊牧民を包括した民族名称としてウズベクの名を提唱した。ウズベク人概念はソ連のもとで公式に採用され、ソ連の政策的な民族境界確定作業により、現代ウズベク民族が形成された。しかし、現代ウズベク民族とされた人々の中には、サマルカンドのウズベク人のように、ウズベク語よりもむしろタジク語を母語とする人々も多く含まれている。このため、全世界の全ての地域の「民族」は一定の発展段階を原住地でたどり現在に至っているという、マルクス・レーニン主義の公式に基づいたソ連による民族区分の恣意性がしばしば指摘される。ウズベク民族はこのような経緯を経て成立したため、ティムール朝を滅ぼしたウズベクの名を冠した民族がティムールを自民族最大の英雄として賞賛しているが、現在のウズベク人がみずからの祖先としてシンパシーを抱くのは、遊牧ウズベクを同化していったこの地にもともと暮らしていた定住民のほうだということになる⁴⁴。

タジクは、タジキスタンを中心に、アフガニスタン北部、ウズベキスタン東部、中国領新疆ウイグル自治区の西部などに居住するイラン系民族で、総人口は約1,650万～2,550万人である。もともとは中世から近世にかけての中央アジアやイラン高原といった中央ユーラシアの乾燥地帯において、住民を2つのグループに大別しタージーク（タジク）とテュルクと呼んでいたことに由来する。ここでいうタジクとはペルシア系の言語を使い、都市あるいはオアシス集落定住民が多く、都市文化になじんだ諸集団に属する人々で、テュルクとはテュルク系の言語を使い、多くは都市やオアシスの間に広がるステップ地帯で遊牧生活を送る遊牧民の諸集団に属している人々の意味であった⁴⁵。

元ウズベキスタン国立タシケント教育大学研究員であった河野明日香は、

⁴⁴ 帯谷（2010年）pp. 98-99.

⁴⁵ 遊牧民は農耕民に比べて人口がはるかに少ない。遊牧民の生活している地域は乾燥帯、ツンドラなど農耕には向かない厳しい気候であるため、厳しい冬を越すための冬営地では数十から数百の家族単位で集団生活を営んでいた。遊牧民は、生活に交易活動が欠かせない。遊牧生活では、ミルク、毛皮、肉などを入手できるが、穀類や工芸品を獲得することが困難である。そのため、遊牧民は移動性を生かして岩塩や毛皮、遠方からの交易品などを隊商を組んで運び、定住民と交易を行ってこれらの生活必需品を獲得してきた。このように、遊牧民の牧地の近辺には定住民である農耕民の居住が不可欠であり、遊牧民と農耕民は持ちつ持たれつに関係にもあったと考えられる。

「ウズベキスタンやタジキスタンは、人口の大部分がオアシス農耕民族によって占められている。そこでは、マハッラやジャモアトのような地域コミュニティが形成され、その中で人々は相互扶助や水利用権などを共有することで、自身の地域コミュニティに対する愛郷心や共同意識を培ってきた。これに対し、定住文化による自己アイデンティティではなく、部族制度による自己アイデンティティが形成されているのが、遊牧民民族であるカザフ民族、キルギス民族、そしてトルクメンの人々である」⁴⁶としている。

ノートルダム大学の政治学者のコリンズはこのような捉え方に対して、「“遊牧”キルギス人、カザフ人、トルクメン人から“定住”ウズベク人とタジク人を無遠慮に分離させることによって中央アジアにおける社会変動を単純化しすぎてきた」とし、「都市と農村の遊牧地域の住民の間で最大の変動があったのであり、またあり続けるのであり、両者とも血縁あるいは想像上の血縁の結びつきに多大な重要性をおき、都市のマハッラ、農村のキシロク (qishloq)、あるいは遊牧民のアウル (aul) であろうが、かれらの生活様式が情緒的なネットワークの周りに20世紀までに組織された」⁴⁷と指摘している。

また、遊牧民の部族 (クラン) のアイデンティティは、非公式のアクターでこの地域の政治を理解するのに決定的なものであり、ソビエト・システムも中央アジア社会を転換しコントロールし部族のアイデンティティを根絶するには遠く及ばず、それらがいかに民主化を制約し掘り崩してきたか考慮に入れなければならないと論じている⁴⁸。

衝突当時にオシユ市長であったメルリス・ミルザクマトフは、2013年12月に解任された際にRadio Free Europe/Radio Libertyのインタビューで、「現在の政府は地域主義と部族主義自体の有利さを活用することによってのみ権力を維持できると公言する」⁴⁹と述べている。バキーエフが血縁者や南部の部族を頼ったのも部族社会が根強く残っている証左といえる。

⁴⁶ 河野 (2010年) p. 122.

⁴⁷ Collins (2006) p. 19.

⁴⁸ Collins (2006) chapter 3. 4.

⁴⁹ <https://www.youtube.com/watch?v=r3qjG2R9fhE>

5. 国境線未確定問題と平和構築

イギリスとロシア帝国が中央アジアの覇権をかけて争ったいわゆるグレート・ゲームによって1876年にコーカンド・ハン国（汗国）からロシア帝国に支配が移った。1917年のロシア革命後、1918年に中央アジアの大半はトルキスタン自治ソビエト社会主義共和国がロシア・ソビエト連邦社会主義共和国のなかに作られ、ブハラ首長国とヒヴァ・ハン国の後継国家は1920年の赤軍による占領後、ブハラ・ホレズム人民ソビエト共和国となった。1924年にトルキスタン自治ソビエト社会主義共和国はトルクメン・ソビエト社会主義共和国とウズベク・ソビエト社会主義共和国に分けられ、ブハラ・ホレズム人民ソビエト共和国は他のウズベク人やタジク人が居住していた地域と共にウズベク・ソビエト社会主義共和国に吸収され、タジク自治ソビエト社会主義共和国がウズベク・ソビエト社会主義共和国内に作られ、1929年に分離されてタジク・ソビエト社会主義共和国に格上げされた。今日のキルギスタンは、ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国内に1929年からカラ＝キルギス自治州として存在した後、1936年にキルギス・ソビエト社会主義共和国が作られ⁵⁰、カザフ・ソビエト社会主義共和国も作られた。このなかで、オシュやジャララバードはキルギスタンに組み込まれた。

オシュは、中央アジア最古の植民都市で、シルクロードの毛糸生産の拠点として8世紀から知られていた。そのシルクロードはオシュを通り抜けるとアライ山地を越え現在の中国のカシュガルに達していた。中世になると、パミール高原を越えタジキスタンのホログへ至るパミール街道の起点にもなった。

フェルガナ盆地には独立後の国境線や飛び地をめぐる問題が複雑に存在している。2001年にキルギスタンとウズベキスタンは、キルギスタン国内にあるウズベキスタンの飛び地であるソク（Sokh）とシャヒマルダン（Shahimardan）を結ぶ道路を建設しウズベク住民が自由に妨げられない通行を保障する協定を締結した。しかし、締結された建設予定地に張り出した岩があり、この区間に4カ所の村があるため新たな土地に定住させなければならないことが分かり、

⁵⁰ Fierman (1991) pp. 16-18.

また、ウズベクの国境警備当局が道路に沿って管理することになれば、飛び地の西側に居住している約20万人のキルギス人が立ち往生することになるため、キルギスタン側から協定は凍結された⁵¹。

2016年3月18日に、ウズベク軍はウズベキスタンのフェルガナ地方の都市であるナマンガンから約50キロメートル北方にあるキルギスタンのケルベン(Kerben)とアラ・ブカ(Ala-Buka)を結ぶ国境線が未画定の道路を占領した。これに対し、キルギスタン軍は直接この地域で対応するのではなく、キルギスタン国内にあるウズベキスタンの飛び地であるソクとシャヒマルダンを結ぶ道路を封鎖した。3月26日にウズベキスタン軍は撤退し、キルギスタン軍も撤退したが、問題は未解決のままである。

ウズベキスタンの軍事行動は、オルト・トコイ(Orto-Tokoi)(カンサン・サイ(Kasan-Sai))貯水池に定期的な修繕作業を行う専門家を送る許可をキルギスタン政府に求めたが、さらなる協議にゆだねられ拒否されたため部隊の配置を行ったものである。この地域はウズベキスタンのフェルガナ盆地での綿花生産の重要性が高まるにつれ、ウズベキスタンとキルギスタンの間で1930年代からの係争地で、1940年代初めに660ヘクタールの土地が貯水池の建設のためにウズベキスタンに譲渡され、貯水池は1954年に完成した。ウズベキスタンは1972年に貯水池の拡張を行い、キルギスタン共和国に代替地を提供したが、1991年に双方が貯水池をめぐる主張を再開した。これらの地域はアク・スー地域で、2010年革命のシンボルとなっている。アタムバエフ大統領は、50カ所以上の国境線問題があり、わずかな扇動で再燃するが、忍耐をもって検討する必要があると述べている⁵²。

2010年の民族衝突を受け、2,670万ドルの平和構築基金(PBF)がキルギスタン政府に供与され、そのうち1,000万ドルは即時対応ファシリティ(IRF)として、1,510万ドルは残っている長期的な平和構築ニーズに対応した平和構築・回復ファシリティ(PRF)であった。PBFとPRFのファースト・パッケージはキルギスタン南部の地域社会のエンパワーメントや和解を増進し平和および公正な行政を改善する目的で、セカンド・パッケージは公正と人権(法の

⁵¹ <http://www.eurasianet.org/node/77966>

⁵² *ibid.*

支配)、地方自治と平和構築(民主的な統治)、マルチリンガル教育と市民としてのアイデンティティ(国民の和解)をサポートする政策として計画され、2013年以来、国連諸機関が10のプロジェクトをキルギスタン政府や地方や国際的なパートナーとともにいった⁵³。

そのうち140万ドルでUNHCRは26ヵ所でパイプの老朽化や水源の整備など水の問題や土地の所有権が明確化されていない問題など、紛争の原因をなくすプロジェクトを行った。たとえば、ウズベキスタン国境に近いイスファナでは、パイプが老朽化して水漏れが起こっていたためパイプを更新し、タジク人の村では水源の周りに囲いを作って人間や家畜が入らないようにして水質を改善した。UNHCRは費用の60%に当たる3000ドルのみ支出し、費用の40%は地方自治体が負担したが、小額の予算で紛争の原因をなくすことができた⁵⁴。このように一つ一つ紛争の原因をなくしていく努力が必要である。

6. 地方言語・少数言語

キルギスタンは560万人の人口のうち、キルギス人が70.9%、ウズベク人が14.3%、ロシア人が7.8%、その他が7%であり、その他にはドンガン人、ウイグル人、タジク人、トルコ人、カザフ人、タタール人、ウクライナ人、高麗人、アゼルバイジャン人などが含まれる多民族国家である。

カザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタンは、それぞれの言語がそれぞれの国で使われていて政府が強いが、キルギスタンではキルギス語はキルギス人でも話せない人がいて政府が弱い。このためキルギスタン政府はキルギス語を国語として定め、国語を通じてアイデンティティの形成を図ろうとしているため、軋轢をまねくことになる。

キルギス語は憲法第10条第1項、第2項で国家語、ロシア語が公用語とされている。2010年1月に採択された「国家言語」に関する法律で、キルギス語はすべての政府機関での作業言語として用い、ロシア語は必要に応じて用い、大

⁵³ UNHCR (2015) p. 11.

⁵⁴ UNHCR ビシュケクの篠原万希子事務所代表は、「このような人間の安全保障に関するプロジェクトは国際協力機構(JICA)では組織が大きすぎ、韓国国際協力団(KOICA)やAga Khan Foundationのように小さな予算で活動する組織でないと取り組むのがむずかしい」と指摘した。

統領、首相、国会議長を含む最高指導者はキルギス語で自由に読み・書き・話すことが求められ、キルギスタンの在外大使館、領事館や他の外交機関はキルギス語を作業言語として用い、ロシア語は必要に応じて用いることになった⁵⁵。

1999年の国勢調査によると、キルギス語が65.2%、ウズベク語が14.7%、ロシア語が14.0%であったが、2009年の国勢調査によると、キルギス語が71.4%、ウズベク語が14.4%、ロシア語が9.0%となっている⁵⁶。ウズベク語はオシュ州やジャララバード州を中心にウズベク系住民の間で使われている。ロシア語は、教育、ビジネスや政府機関で幅広く使用される。特に首都ビシュケクとその周辺では多くの住民はロシア語を使って生活しており、キルギス語があまり上手に話せないキルギス人もいる程である。その他、ドンガン語なども使われている。ドンガン人は、19世紀、清国で民族蜂起に失敗し、ロシア帝国領に逃れ住んだ中国系ムスリムである回民（現在の回族）や、新天地を求めて移住した回民の子孫で、回民（回族）は中国語の方言を母語としている。

2006年にウズベク人のビジネスマンや国会議員が、独立以降、公用語から除外されたウズベク語も公用語とするよう求めたが、真剣に議論されることなく、キルギス政府はウズベク人の少数民族の鍵となる指導者を取り込み圧力をかけた⁵⁷。

2010年の民族衝突以来、ウズベク人は経済的な機会を失うと共に差別され続けている。高度のスキルを必要とする仕事や公務員のポストへのアクセスがなく、ウズベク人は急速に教育への関心を失っている。マンズラ・アスラノヴァ第9オシュ中学校校長によれば、高校に行くウズベク生徒数が急減している。多くのウズベク人は、勉強よりも商売を覚えた方がよいと考えている⁵⁸。ウズベク人は最大の少数民族であるが、1991年にオシュに21あったウズベク語学校は（2009年時点で）14しかない。

ウズベク語学校の問題は多面的である。最大の問題は教師不足で、資格を持った教師不足のため、資格を持っておらず適切な経験を積んでいない大学の3年生や4年生を採用せざるをえない。移民も有害な要素で、およそ50万人のキ

⁵⁵ Aminov, Jensen, Juraev, Overland, Tyan, Uulu (2010) p. 16.

⁵⁶ *ibid.* p. 3.

⁵⁷ *ibid.* p. 10.

⁵⁸ <http://www.eurasianet.org/node/67908>

ルギスタン国民が移民したが、その大半はウズベク人で、成功した者はロシアに残り、彼らの家族が呼び寄せられる。ウズベク語の教科書と教材も大きな障害で、多くの子供はウズベク語学校でソ連時代にウズベキスタンで出版された教科書を使用しなければならない。ウズベキスタンが1993年にキリル文字⁵⁹からラテン文字に切り替えたが、キルギスタンにおける教師がラテン文字に適応しておらず、時代遅れの教材に頼らなければならない。キルギスタンで唯一ウズベク語で授業を行っていたキルギス・ウズベク大学は、1997年に教科書開発センターを設立して、キリル文字による教科書の作成を開始し、小学校に7種類の教科書、中学校と高校に20種類の教科書を作成してきたが、必要とされる教科書の34%にしかになっていない⁶⁰。

現状では大学は、キルギス語、ロシア語、ウズベク語で受験できるが、キルギス人のナショナリスト政党で第一党となっているアタ・ジュルト⁶¹の政治家たちがウズベク語で入試を行うべきではないと主張する動議をした。これに対し、アタムバエフ大統領とババノフ首相は教育相のウズベク語でも実施するという決定を支持した。アタ・ジュルトの国会議員であるナデラ・ナルマトヴァは、「キルギスタンに他の民族が住み、彼らの祖父たちも住んでいたのであり、尊重の印としてキルギス語を話すことに何も悪いことはなく、我々は愛国主義者になるべき」としている⁶²。

中央アジアアメリカ大学のエミルベク・ジュラーエフ教授は、アーレンド・レイプハルト⁶³が慢性的な民族の問題あるいは“部分に分かれた分裂”がある社会は、それらの差異に適応させる憲法を選択することが最善であり、連邦主義、

⁵⁹ キルギスタンは1928年まではアラブ文字を使っていたが、1928年と1940年の間にラテン文字が用いられ、キリル文字は1940年に採用された。1991年の独立直後にラテン文字に戻そうという要求があったが、その後は散発的な議論が起こるだけである。Aminov, Jensen, Juraev, Overland, Tyan, Uulu (2010) p. 10.

⁶⁰ <http://www.eurasianet.org/departments/insightb/articles/eav102709.shtml>

⁶¹ 2010年4月にバキーエフが国外脱出した後に作られた南部を中心としたバキーエフ派の政党。アタ・ジュルトは「祖国」を意味する。

⁶² http://language magazine.com/?page_id=3790

⁶³ Arend Lijphart (1936年-)。アメリカの政治学者。オランダ・アペルドールン生まれ。カリフォルニア大学バークレー校助教授などを経て、カリフォルニア大学サンディエゴ校名誉教授。1995年から1996年まではアメリカ政治学会会長を歴任。二大政党制、小選挙区制によって特徴づけられる多数決型民主主義 (majoritarian democracy) もしくはウェストミンスター型民主主義のモデルに対して、コンセンサス型、多極共存型民主主義モデルを対峙させた。

議会主義、比例代表制によって差異に適應することを目指す必要があると論じていることを引用し、キルギスタンの独裁的な大統領制から議会制民主主義への移行の諸問題を論じている⁶⁴。キルギスタンでは地方の諸機関で少数民族が締め出され、少数民族の言語による教育の維持が困難になっている。ウズベク系住民は、地方自治体や警察などがキルギス人ばかりで占められ、ウズベク語が公用語とされていないことに不満を持っている。レイプハルトの議論に基けば、憲法でウズベク語も公用語と明記するべきということになるが、ジュラーエフは「地方自治体などの職員でウズベク系住民を増やし、ウズベク語で教育する学校を増やす必要はあるが、今、ウズベク語の公用語化を憲法で明文化するのは現実的ではなく、分離主義や自治も認められない」⁶⁵としている。

国際キルギスタン調査委員会の報告書がキルギスタン政府に参加の検討を求めたヨーロッパ地方言語・少数言語憲章は、ヨーロッパの地方言語や少数言語の保護・促進するためにヨーロッパの条約として欧州評議会の主導で1992年に採択された。表2にあるように、歴史的に（最近の他国からの移民も含めて）条約締結国の国民により使用されていて、多数者言語もしくは公用語と著しく異なったり、ある地方において使用されていたり、国家全体で言語的少数者によって使用されていたりする言語にのみ適用される。また、多数者の言語や公用語の方言、国家内の地方の歴史的構成員によって話されてきた言語、いろいろな地理上の地方で使われる、イディッシュ語やロマ語などの言語も含まれる。ある行政区画で公式に使われるスペインのカタルーニャ語のような言語は国家の公用語として分類されないため憲章により保護される。キルギスタンにおいてもウズベク語など少数言語が保護される必要がある。

地方言語や少数言語の保護・促進するために公用語化まで踏み切ったのは、南米のボリビアである。2009年1月25日に憲法改正のための国民投票が実施され、先住民の権利拡大が盛り込まれた新憲法案が61.43%の支持を得て承認され、同年3月ボリビア共和国 (Republic of Bolivia) はボリビア多民族国 (Plurinational State of Bolivia) へ国名を変更した。憲法の前文には「多民族共同体の権利に

⁶⁴ Dzhuraev (2013). p. 283.

⁶⁵ 2016年3月22日の筆者のインタビューでの発言。

表2 ヨーロッパ地方言語・少数言語憲章批准国および保護の対象言語

アルメニア	クロアチア	ドイツ
2002年1月25日批准	1997年11月5日批准	1998年9月16日批准
アラム語	イタリア語	低ザクセン語（北ドイツ全域）
ギリシア語	ウクライナ語	ソルブ語
クルド語	スロヴァキア語	デンマーク語
ヤジーディー語	セルビア語	フリジア語
ロシア語	チェコ語	ロマ語
	ハンガリー語	
イギリス	バンノニア・ルシン語	ノルウェー
2001年3月27日批准		1993年11月10日批准
アイルランド語	スイス	サーミ語
ウェールズ語	1997年12月23日批准	フィンランド語
スコットランド・ゲール語	イタリア語	ロマ語
コーンウォール語	ロマンシュ語	
スコットランド語（北アイルランド）		ハンガリー
マン島語	スウェーデン	1995年4月26日批准
	2000年2月9日批准	クロアチア語
ウクライナ	フィンランド語	スロヴァキア語
2005年9月19日批准	サーミ語	スロベニア語
ベラルーシ語	メアンキエリ（フィンランド語の方言）	セルビア語
ブルガリア語		ドイツ語
クリミア・タタール語	スペイン	ルーマニア語
ガガウス語	2001年4月9日批准	
ギリシャ語	アストゥリアス語	フィンランド
ドイツ語	アラゴン語	1994年11月9日批准
ハンガリー語	アラン語	サーミ語
イディッシュ語	カタルーニャ語	スウェーデン語
モルドヴァ語	ガリシア語	
ポーランド語	バスク語	ポーランド
ルーマニア語	ヴァレンシア語	2009年2月12日批准
ロシア語		アルメニア語
スロヴァキア語	スロヴァキア	イディッシュ語
	2001年9月5日批准	ウクライナ語
オーストリア	ウクライナ語	カシューブ語
2001年6月28日批准	クロアチア語	カライム語
クロアチア語（ブルゲンラント州）	チェコ語	スロヴァキア語
スロヴァキア語	ドイツ語	タタール語
スロベニア語	ハンガリー語	チェコ語
チェコ語	ブルガリア語	ドイツ語
ハンガリー語	ポーランド語	ヘブライ語
ロマ語	ロマ語	ベラルーシ語
	ロシア語	リトアニア語
オランダ		レムコ語
1996年5月2日批准	スロベニア	ロシア語
イディッシュ語	2000年10月4日批准	ロマ語
低ザクセン語	イタリア語	
フリジア語	ハンガリー語	リヒテンシュタイン
リンブルフ語	ロマ語	1997年11月18日批准
ロマ語		
	デンマーク	ルクセンブルク
キプロス	2000年9月8日批准	2005年6月22日批准
2002年8月26日批准	ドイツ語	
アルメニア語		

出所：http://www.coe.int/en/web/conventions/full-list/-/conventions/treaty/148/declarations?p_auth=IzJeQ0wW より作成

基づく社会的統一国家」であることが明記され、36すべての先住民族言語⁶⁶を公用語と規定し、先住民族の権利や地方自治についても詳細に規定された。

7. 極右の台頭

2010年のキルギス人とウズベク人の衝突後、キルギス人のナショナリスト運動が活発化しているが、なかでもクウルク・チョロ（40人の騎士）はウクライナの極右ネオナチとして知られるPravy Sektor⁶⁷と比較される。5,000人のメンバーがいるといわれるクウルク・チョロは、伝説的なキルギス人の叙事詩の英雄であるマナス⁶⁸の追隨者になることを求め、リーダーであるバクティベク・ヌラリ・ウウルは、「目標は若い世代を愛国者として育て、キルギスの価値、文化、言語を守ることであり」としている⁶⁹。

2014年の12月のある夜、フェルトでできたカルパック帽子⁷⁰をかぶったクウルク・チョロの集団が、ビシュケクにあるカラオケ・クラブに乱入し女性たちを並ばせビデオカメラで録画して娼婦として非難し、中国人の男性をキルギスタンにおいて性的不道徳行為を煽っていると非難した⁷¹。

クウルク・チョロは2015年の1月にウイグル人の売主をビシュケクの衣料品バザールから追い出しキルギス人に置き換えることを求める声明を出したため、ファシストと呼ばれるようになった。ヌラリ・ウウルによればクウルク・チョ

⁶⁶ ボリビアの公用語：Castilian Spanish, Aymara, Araona, Baure, Bésiro (Chiquitano), Canichana, Cavineño, Cayubaba, Chácobo, Chimán, Ese Eja, Guaraní, Guaras'we, Guarayu, Itonama, Leco, Machajuyaikallawayá (Kallawayá), Machineri (Machiguenga), Maropa, Mojeño-Trinitario, Mojeño-Ignaciano, Moré, Mosestén (Tsimane'), Movima, Pacawara (Pacahuara), Puquina, Quechua, Sirionó, Tacana, Tapiete, Toromona, Uru-Chipaya, Weenhayek (Wichi Lhamtés Nocten, Wichi Lhamtés Vejoz), Yaminawa, Yuki, Yuracaré and Zamuco (Ayoreo)

⁶⁷ 森（2014年）参照

⁶⁸ キルギスに伝わる叙事詩で、その主人公たる勇士の名でもある。口承された数十万行に及ぶ叙事詩で、ホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、古代インドの『マハーバーラタ』などよりもはるかに長い。『ギネス世界記録』では世界で最も長い詩と認定されている。マナスから始まり、その子セメテイ、孫セイテクと続く、計8代の事跡をうたう。クタイ（中華系）人とカルマク（オイラト族）人との戦いが叙事詩の主要なテーマになっている。マナスはマナスチと呼ばれる語り手によって語られる。

⁶⁹ <http://www.eurasianet.org/node/71996>

⁷⁰ 天山山脈を表しているというキルギス人の男性がかぶるつんぼり高い帽子。

⁷¹ <http://www.eurasianet.org/node/71996>

ロの手入れは、内務省、労働・移民・青年省、国家保安局によって容認されているとしている。国家保安局の代表は2012年に腐敗と闘うことについてクウルク・チョロと覚書にサインしたことを認めているが、その覚書を公表することは拒否している。内務省のスポークスマンはクウルク・チョロをサポートしていることを否定し、クウルク・チョロの手入れは非合法であり訴追すると表明した⁷²。

弁護士のアディレット・アジモフは、クウルク・チョロは法律を執行する機能を持っていないのであり、カラオケ・クラブのオーナーの権利を侵害し、ビデオ撮影して女性の権利を侵害し名誉を棄損したとしている。キルギスタンでは売春宿は違法であるが、売春は違法ではない。同じ法律事務所のヌルベク・トクタクノフは警察批判で知られているが、クウルク・チョロは腐敗した警官や法の支配の不在に疲れた人々の支持を得ていると指摘している⁷³。2015年1月に国会は刑法を改正し、キルギスタン国民がその財産を守るために火器を用いることを認めたため、治安はより悪化した。

おわりに

2015年8月にキルギスタンはユーラシア経済連合⁷⁴に加盟した。西側には「旧ソ連諸国を再統合しようとするものである」という批判がある⁷⁵が、「EUはウクライナ、モルドヴァ、グルジアと自由貿易協定を締結し、EUとロシアはそれぞれの経済ブロックに引き入れようとしていて、最終的にこれらの国を2つに引き裂くことになる」⁷⁶という見方のほうが公平な見方といえる。

ユーラシア経済連合対EUの構図とは別に、ペルシア語のタジキスタンを例外としてキルギスタン、カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタンは

⁷² *ibid.*

⁷³ *ibid.*

⁷⁴ 2015年1月1日、ロシア、ベラルーシ、カザフスタンで構成されるユーラシア経済連合（EEU）が発足し、翌2日にはアルメニアが加盟した。

⁷⁵ https://www.washingtonpost.com/world/europe/russia-kazakhstan-belarus-form-eurasian-economic-union/2014/05/29/de4a2c15-cb01-4c25-9bd6-7d5ac9e466fd_story.html

⁷⁶ <http://www.spiegel.de/international/europe/war-in-ukraine-a-result-of-misunderstandings-between-europe-and-russia-a-1004706.html>

テュルク語族であり、中央アジアは共同体として統合される可能性をもっている。カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタンは、石油や天然ガス資源が豊富であるが、水資源が乏しい。それに対して、キルギスタンとタジキスタンは、石油や天然ガス資源はないが天山山脈とパミール高原の豊富な水資源がある。これまでキルギスタンとタジキスタンは、水力発電による電気で冬場の暖房もまかなってきたが、ウズベキスタンなどから天然ガスが供給されれば天然ガスに切り替え、その分水力発電ではなく農業用水として水資源をウズベキスタンなどに供給できるはずである。コンピューターで合理的で効率的な資源配分をシミュレーションして発展している多国籍企業のように、中央アジアは国境概念に囚われ対立しているより経済共同体として発展する選択をし、新たなアイデンティティの形成を目指すべきであろう。そして、国内の貧困や腐敗を解消し、不満を持った人々を民族の違いを利用して扇動して対立させる犯罪行為を繰り返させないという新たな規範の構築が必要である。

参考文献

- Aminov, K., Jensen, V., Juraev, S., Overland, I., Tyan, D., Uulu Y. (2010) "Language Use and Language Policy in Central Asia", *Central Asia Regional data Review*, Vol. 2, No. 1
- Collins, Kathleen (2006) *Clan Politics And Regime Transition In Central Asia*, Cambridge University Press
- Dzhuraev, Emilbek (2013) "Constituting Republics: Toward Political Conception of the Constitutional Predicament", Dissertation submitted to the Faculty of the Graduate School of the University of Maryland, College Park in partial fulfillment of the requirements for the degree of Doctor of Philosophy
- Fierman, William ed. (1991) *Soviet Central Asia: The Failed Transformation*, Westview Press, Boulder, CO
- Foltz, Richard (1996) "The Tajiks of Uzbekistan", *Central Asian Survey*, 15 (2)

- Government of Kyrgyzstan (2010) “Comments by the Government of Kyrgyzstan in Response to the Report of the Kyrgyzstan Inquiry Commission into the Events in Southern Kyrgyzstan in June 2010”
- International Crisis Group (2010) “The Pogroms in Kyrgyzstan”
- Kyrgyzstan Inquiry Commission (2011) “Report of the Independent International Commission of Inquiry into the Events in Southern Kyrgyzstan in June 2010”
- Lipset, Seymour Martin and Rokkan, Stein (1967) *Party System and Voter Alignments: Cross-national Perspectives*, New York: Free Press
- Suinaly kyzy, Asel (2012) “Kyrgyzstan’s Tragedy in the South: Political Provocation or Ethnic Confrontation?”
- UNHCR (2015) *UNHCR Peace Building Project “Building Trust and Confidence among People, Communities and Authorities” End-Line Assessment*
- World Bank (2013) “Poverty Mapping in the Kyrgyz Republic: Methodology and Key Findings”
- 帯谷知可 (2010年) 「歴史の見直し」から「国史」の創成へーティームールの復権一、宇山智彦編著『中央アジアを知るための60章』第2版(エリア・スタディーズ26、明石書店)所収
- 河野明日香 (2010年) 「中央アジア諸国における社会開発と地域コミュニティ」大杉卓三、大谷順子編著『人間の安全保障と中央アジア』(花書院)所収
- 浜野道博 (2011年) 『検証キルギス政変 天山小国の挑戦』東洋書店
- 森彰夫 (2014年) 「ウクライナにおけるナショナリズムの暴走」『東北公益文科大学総合研究論集』第26号
- 森彰夫 (2008年 a) 「ウクライナの市場経済化と“オレンジ革命”—オリガーキーの国家支配—」森彰夫、今井正幸、大田英明、和田正武著『市場経済下の苦悩と希望—21世紀における課題—』(彩流社)所収
- 森彰夫 (2008年 b) 「キルギスの産業再生の政策課題」森彰夫、今井正幸、大田英明、和田正武著『市場経済下の苦悩と希望—21世紀における課題—』(彩流社)所収

- 森彰夫（2008年c）「キルギスの重債務貧困国（HIPC）イニシャティブ申請問題」森彰夫、今井正幸、大田英明、和田正武著『市場経済下の苦悩と希望—21世紀における課題—』（彩流社）所収
- 森彰夫（2015年a）「世界市民としてのアイデンティティー「固有の文化」幻想の超克—（その1）」『東北公益文科大学総合研究論集』第27号
- 森彰夫（2015年b）「世界市民としてのアイデンティティー「固有の文化」幻想の超克—（その2）」『東北公益文科大学総合研究論集』第28号
- 吉田世津子（2005年）「クルグス」小松久男、梅村坦、宇山智彦、帯谷知可、堀川徹編『中央ユーラシアを知る辞典』（平凡社）所収